

**製品名: NQO1 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe21489**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:31kD;Observed MW:31kD

**抗原情報**

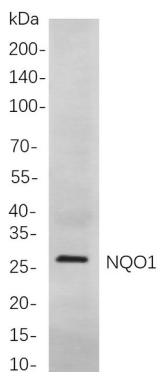
遺伝子名	NQO1
別名	NQO1;DIA4;NMOR1;NAD;P;H dehydrogenase [quinone] 1;Azoreductase;DT-diaphorase;DTD;Menadione reductase;NAD;P;H:quinone oxidoreductase 1;Phylloquinone reductase;Quinone reductase 1;QR1
遺伝子 ID	1728.0
SwissProt ID	P15559
免疫原	ヒト NQO1 の合成ペプチド

**背景**

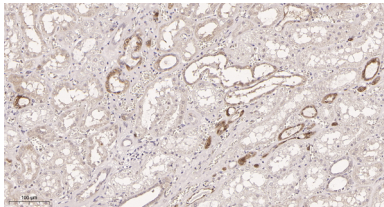
細胞局在: 細胞質。この遺伝子は NAD(P)H 脱水素酵素 (キノン) ファミリーに属し、細胞質 2 電子還元酵素をコードする。この FAD 結合タンパク質はホモ二量体を形成し、キノンをヒドロキノンに還元する。このタンパク質の酵素活性は、ラジカル種の生成につながるキノンの 1 電子還元を阻害する。この遺伝子の変異は、遅発性ジスキネジア (TD)、ベンゼン曝露後の造血毒性リスクの増大、そして様々な形態の癌に対する感受性と関連付けられている。このタンパク質の発現変化は多くの腫瘍で認められており、アルツハイマー病 (AD) とも関連している。異なるアイソフォームをコードする代替転写スプライスバリエントが特徴付けられている。  
[RefSeq 提供、2008 年 7 月]

## 研究分野

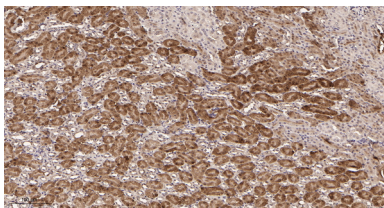
## 画像データ



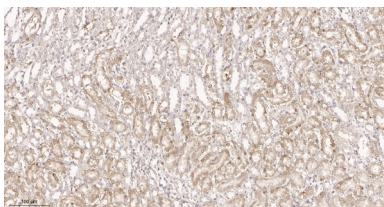
NQO1 ウサギ mAb を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を用いた。



パラフィン包埋ヒト腎臓組織の免疫組織化学分析。1、NQO1 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、抗体の回復には EDTA pH 9.0 を使用 (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋マウス腎臓組織の免疫組織化学分析。1、NQO1 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ラット腎臓組織の免疫組織化学分析。1、NQO1 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。